



国民の森林・国有林

中部森林管理局

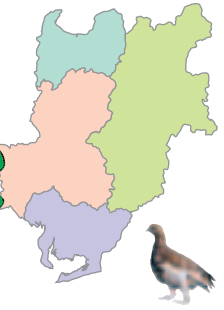
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

# 中部の森林



## 南木曾伝統工芸の森の 協定締結式を開催

(P 2 に関連記事)

主な項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「木の文化を支える森づくり」、「遊々の森」の協定締結、開園式…………… 2</li> <li>○名古屋事務所の普及業務の取組…………… 3～5</li> <li>○新シリーズ実験林・試験地等紹介 …………… 7</li> </ul>
------	--



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

## 「木の文化を伝える森づくり」 「遊々の森」の 協定締結と開園式を開催

### 「南木曾伝統工芸の森」の 協定締結

「南木曾支署」五月二十六日、南木曾支署管内の南蘭国有林において、「南木曾伝統工芸の森」の協定調印式が、南木曾町及び南木曾支署合同植樹祭に合わせ執り行われました。

「南木曾伝統工芸の森」は、「木の文化を支える森づくり」の一環として、トチノキ、サワラ等の伝統工芸に使用する樹木の育成等、伝統文化の継承を目的として、設定したものです。

南木曾町は、豊富な木材資源を背景として古くから木材工芸が発達し、国や県の伝統工芸品に指定されている「南木曾ろくろ細工」や「蘭松笠」、「サワラ桶」などの豊かな「木の文化」が現在まで伝えられています。

今年二月に、南木曾ろくろ工芸協同組合、蘭松笠生産協同組合、南木曾木材工業協同組合等の伝統工芸関係者からなる「南木曾伝統工芸の森育成協議会」が結成され、今回の協定締結に至りました。



協定締結後握手する小林支署長、小祿局長、宮川町長

場所は、中仙道六十九次の一つ「妻籠宿」や工芸材料を求めて木地師が住み着いたといわれる「木地師の里」に近く、伝統文化の薫り高い地域に設定しています。

当日は、みどりの少年団、長久手町関係者、林業関係者等、約二百人が見守る中、協議会長と支署長による協定書への調印式や看板の除幕式が行われました。式典後には、植樹作業が行われ、トチノキ、ケヤキ、イヌエンジュ等、八種類約四百本が植えられました。

この「南木曾伝統文化の森」から、多くの人々に伝統文化の素晴らしさを発信すると共に、後世への伝統文化継承に資することができればと考えています。

### 「中野区遊々の森」スタート

「東信署」平成十八年三月十五日、東京都中野区教育委員会と東信森林管理署との間で「遊々の森」協定の締結がなされ、この「中野区遊々の森」の開園式が、五月二十九日、長野県軽井沢町長倉山国有林において行われました。

当日は、軽井沢町長、やまぼうし自然学校代表理事のご出席のもと、中野区教育委員会委員長をはじめ、中野区教育委員会関係職員、鷺宮小学校児童(九十名)、中部森林管理局・署の職員ら約百二十名が参加しました。

記念式典では、小祿局長より「遊々の森を通じて様々な交流を実現させてほしい」、中野区教育委員会委員長からは「生きる力を養ってほしい」との挨拶があり、佐藤軽井沢町長からは、歓迎の祝辞をいただきました。

児童代表は、教室で学んだこと、疑問に思ったことを、遊々の森で実際に体験しながら理解を深めたい等力強い言葉があり、続いて、「中野区遊々の森」看板除幕式と記念植樹(イチイ七本)が行われました。

その後、児童たちは野外活動①森づくり体験(森林整備の意義や、木の切り方を習い、一本の木を二人で協力して切り倒す。切った木は学校に持ち帰り工作に使用。)②ネイチャートレイル(自然観

察のフィールドでテーマを持ち、自然に触れながらのウォーキングや「森のビンゴゲーム」などで森を楽しんで歩く。)を実施しました。

この協定が締結された経緯は、中野区内の中学校が中野区軽井沢少年自然の家を中心に、やまぼうし自然学校が実施する森林体験学習がきっかけで、毎年おなじ森林で様々な体験を通じ、季節による自然の変化、手入れをすることによる森林の変化等が体験できるフィールドがないかと考えたのが始まりでした。

このように、東信署管内には首都圏の施設が数多く存在しており、一層のPRの必要性も痛感しています。

今後は、子供たちが、思いやりの心と豊かな人間関係や社会性、生きる力を育むための体験活動の一環として、森林環境教育や自然体験活動を継続的に推進できるとして東信署としても協力していくこととしています。



関係者による除幕式



## 各地で植樹祭等が開催される

## 第五十七回全国植樹祭

東濃サテライト会場のイベントに参加

【東濃署】五月二十一日に岐阜県下呂市において開催された第五十七回全国植樹祭関連イベントとして、岐阜県多治見市のセラミックパークMINOで開催された東濃サテライト会場のイベントに参加しました。

サテライト会場は岐阜県内に岐阜・西濃・中濃・東濃の四会場を設け、その内、東濃会場は、「緑の子供会議活動を通じて、森林・緑の大切さを学んだ子供たちの取り組み成果を全国に発信する」ともに、子供たちに森林・緑をより身近に感じてもらうため、森林に関する体験プログラムを実施し、森林づくり活動の機運を醸成すること。」を趣旨として開催されました。



名前はどうやって彫れるの？

当署においては、子供たちに楽しみなから木に親しんでもらい、木の大切さ、森の大切さを感じてもらうため、ネームプレート作りと、ホットボンドを使った木工クラフト、パネル展示を行いました。会場が屋上であったため、スタッフも暑さに多少バテ気味でしたが、喜んで木工クラフトに参加されている親子連れや、ネームマシンの前に長蛇の列をなす子供たちを見て、暑さも忘れ楽しい一日を過ごせました。

## 「とやま森の祭典」

【富山署】第七回とやま森の祭典が五月二十五日、「温だん化 緑の力で すぐうんだ」をテーマに、高岡市福岡町五位のとやま・ふくおか家族旅行村で開催され、五月晴れの下、林業関係者、一般参加者・花とみどりの少年団・上下流の交流で飛騨地域の関係者等、約二千五百人が参加しました。

式典では、石井知事の式辞や橋高岡市長の歓迎のことば等の後、林野庁長官祝辞を矢内次長が代読しました。

式典後の記念植樹では、参加者全員が力を合わせて、二年前の台風で被害を受けた森林の復旧を目的に、コナラやケヤキの苗木を、また、桜の名勝地づくりを目的に桜の苗木を、参加者は力を合わせて八百本植樹しました。

富山署は、森林の働きのパネル展示と

木工クラフトを行い、式典前から童心に戻りリース作りを楽しんだ参加者からは「自然の中で、自然のものを使って作るの楽しいです。」との声も聞かれました。花とみどりの少年団も、最初は考え込む子もいましたが、作り出すと夢中になり、思い思いに輪切りや木の実を使った自信作を自慢し合い、最後に「来て良かった。いい思い出になりました。」とお礼の言葉を残し会場を後にしました。



子供たちと植樹をする矢内次長

## 名古屋事務所の普及業務の取組

## 「小学五年生・森林の働きや大切さを学ぶ」

【名古屋事務所】名古屋事務所では瀬戸市内十二の小学校から野外学習時に森林教室を実施してほしい旨の要請を受け、五月の連休明けから六月にかけて、五年生七百四十名余りを対象に実施しました。

実施内容は学校により多少異なりますが、①酒向尾張森林官による自作のイラストや模型等を使った「森林の働きや大切さ」についての講話。②指導普及グループの女性スタッフによる「森林の恵み」をテーマとした紙芝居の上映。③土を踏みしめ、木に触れながら自然観察する林内の散策。④木工クラフトや丸太切りと鉛筆立て作り。などの体験を含めた多彩なプログラムとし、児童が五感を活かして楽しく学んでもらえるよう心がけました。



自分で作った作品を手にして

このほかにも、五月二十六日には、名古屋市内立志段味西小学校からの訪問学習の要請に応え、五年生百十九名を対象にプレゼンテーション形式により、森林の働きや樹木の種子の飛び方などについて模型を使った座学を実施しました。

どの森林教室も大いに盛り上がり、各学校から届いた感想文では、「森林の大切さが分かった。」「木の香りを初めて知った。」「木を使い自分で作った壁掛けは宝物として大切にしたい。」「学んだ森林の知識を両親に話したら褒められ、とても嬉しかった。」など、多数の感想が寄せられ、スタッフとしてもその成果に手心えを感じることのできた森林教室となりました。

**「葦毛湿原の植物観察と森林浴を  
楽しみながらのトレッキング」**

「名古屋事務所」五月二十日、平成十八年度「第二回森林ふれあい講座」を開催しました。今回の講座は、東海のミニ尾瀬と呼ばれる豊橋市の葦毛湿原での植物観察と、同湿原から豊橋国有林内を通り普門寺までの約4kmのトレッキングを楽しみました。

今回も第一回の森林ふれあい講座と同様熱田生涯学習センターとの共催事業として開催し、二十名の定員に対し、名古屋市内を中心に七十名もの応募がありました。

当日は、朝からあいにくの雨模様で、植物観察やトレッキングが行えるか心配しましたが、バスに乗って現地に着く頃には雨も上がり、うつつらと日が差すほどでした。

講師には中部森林管理局指導普及課の元島技術開発主任官を招き、同氏の豊富



説明に耳を傾ける受講者

な知識と丁寧な語り口によるミニカキグサや、ミカワバイケイソウなど、めずらしい植物を目の前にしての説明に対し、受講者は真剣に聞き入っていました。

また、午後からは普門寺までのトレッキングに挑戦。急な登り坂を越え、一番高い二川TV中継所からは、豊橋の市街地や浜名湖が眺望でき、景色の良さに受講者は満足していました。

当初は、初心者には少しきついコースではと心配しましたが、一人の脱落者もなく、予定時間よりも早く全員が普門寺まで完歩しました。

参加者からは、「疲れたけど、楽しかった。」「丁寧な説明に湿原の植物や草花のことがよく分かった。」「またやってほしい」との声が聞かれ、好評を得て閉講しました。

**「丸太切り体験大盛況」  
ウッドビレッジ展示場誕生  
三周年記念イベント」**

「名古屋事務所」五月二十日・二十一日の両日、愛知県大府市にあるウッドビレッジ健康木の住まいにて、「木は健康に優しい建材、木と健康のいい関係」を実感していただくことを目的に、ウッドビレッジ「展示場誕生三周年」記念イベントが開催されました。

名古屋事務所からも、木とのふれあい、木の良さを感じてもらおうと、各日三名が参加し、環境と木に関するパネル展示や、丸太切り体験及び鉛筆立て作り、カンナくずプール等を実施し、木の良さをPRしました。

子供たちはノコで丸太を切るの初めで、「真つ直ぐ切るのはむずかしい」



まっすぐ切るのは難しいよ

と言いながら時間をかけて切り、次で自分で切った丸太に、慎重に卓上ボール盤を使って穴を空け、鉛筆立てを作りとても楽しそうでした。

二日間とも晴天に恵まれ、終日家族連れで賑わいを見せました。両日で千五百人が訪れ、延べ二百組を超える親子が当事務所ブースで木にふれあいました。

今後こういった機会を通じ、都市住民に対する、木の優しさや温もりなどのPR活動に取り組んで行きたいと思いません。

**「第四回名古屋CF事業」**

「名古屋事務所」「散策して気持ちのいい丸根山園地にしよう」をテーマとし、第四回名古屋シティ・フォレスト事業を六月三日の土曜日に、瀬戸国有林で実施しました。

都市近郊から多くの家族連れが訪れる丸根山周辺を整備し、気持ちよく散策して貰おうと、周辺の雑木の刈払いと、園地内で伸び放題になっているツツジなどの刈り込みの作業を三十六名の隊員の参加で行いました。

当日は、梅雨入り前の蒸し暑い日で、木々も大きく育っており大変な作業になりましたが、作業後は、すっかり見晴らしが良くなるとともに、ツツジなどの木々もすっきりとし、来園者の方々に喜んでもらえるものとなりました。



(5) 平成18年6月



作業を終えて

また、経験者の隊員から誘われ、今回初参加の隊員たちも、「初めての作業だったが、道具も良く切れ、良い汗をかく事が出来た。」と美しくなった園地周辺をながめながらも満足した様子でした。

### 「里山環境の大切さ学ぶ」

「名古屋事務所」六月十日、定光寺自然休養林に隣接する「定光寺はたるの里」において、第三回森林ふれあい講座を実施しました。今回は『蛍の話とゲンジボタルを観賞しよう』との講座で、親子で参加者を中心に四十六名が受講しました。

講座では「定光寺はたるの里の会」の加藤会長から、蛍が人との関わりの強い昆虫であり里山の環境を維持していくことの大切さなどが話されました。

また、「蛍はなぜ光るの？」など子供たちからの質問にも分かりやすく答えていただきました。

あたりが暗くなった七時四十分頃になるとゲンジボタルが飛び始め、幻想的な光に参加者から歓声の音が響きました。



ホタルが飛ぶのをたのしみに

### 各地からのたより

#### 犬山中学生による

#### 体験林業の実施

「木曽署」五月十六日から十八日の三日間をかけて、木曽谷の歴史や産業を学ぶことを目的に、愛知県犬山中学の二年生の生徒及び教員ら二百十八名が、赤沢自然休養林等で体験学習を行いました。

初日の十六日は三班に分かれ、自然散策、歩道整備(チップ舗装)、除伐作業



明るくなった木曽ヒノキ林の中で

を行い、このうち除伐作業では、署員の指導のもとヒノキの稚幼樹の生育を阻害しているヒバの小径木を鋸と剪定バサミを使用して作業を行いました。

あいにくの小雨混じりで肌寒い天候の中、生徒たちは普段使用したことのない鋸やハサミに戸惑いながらも、うっそうと生い茂ったヒバの除去作業に体も次第に暖かくなり、終了時には明るくなった林内を見て、成し遂げた充実感を実感していました。

この後、生徒たちは地元の中学生との交流会や、各町村における特産品等の体験学習を行う予定で、森林とともに歩んできた木曽谷の文化や人柄に触れ、今回の学習が生徒達の見聞を広め良い思い出になればと考えています。

#### 豊川市の小学生が

#### 段戸国有林で森林教室

「愛知所」当所では、自然に親しむ機会が少ない小学生に自然を肌身で感じてもらいたいと、平成十二年から豊川市内の小学校を対象に段戸裏谷原生林で森林教室を実施しています。

今年も五月二十五日から小学校の要望に応じて、森林教室が始まりました。

段戸裏谷原生林はモミ・ツガを主体とした面積約百三十畝の原生林で、林内を散策しながら約二時間のコースを案内しています。森林教室を体験した小学生からは「緑を少しずつ増やしていきたい」、「森林の大切さが分かった」などの感想が出されており、自然への関心の高さが窺えます。

今年も、八月の初旬までに千人を超える児童の案内を予定しています。



木の大きさを肌で感じて



## 「みんなの国有林ゴミゼロ運動」

〔愛知所〕「ゴミゼロの日」(五月三〇日)に合わせ、愛知森林管理事務所及び名古屋事務所の職員二十五名により定光寺自然休養林内の県道周辺の清掃活動を実施しました。

一見するときれいに見える県道ですが、一歩奥道沿いから国有林内に入ると、そこには、車のタイヤ・バンパー、自転車、パソコン・テレビ、空き缶、家具、家庭ゴミ等が投棄されており、四時間程の清掃活動により、大型トラック約一台分のゴミを林内から撤去しました。

参加した職員からは、ゴミを捨てる人のモラルの低さを痛感するとともに、「ゴミを捨て難い環境作り」、「啓発・注意看板の整備」等の必要性の意見があり、今後みんなの国有林を守っていくことを誓い合いました。



ゴミ拾いをする職員

## 地域と密着した取り組みを継続

〔飛騨署〕当署では平成十六年度の技術交流発表会で、森林官が発表した「地に密着した取り組み」を継続して取り組んでおり、一部を紹介します。

五月二十一日には、飛騨市神岡町にある「みどりを育てる会」の会員とその家族六十五名が参加し、神岡、双六、本郷の各森林官が協力するなか、高山市上宝町の明ヶ谷国有林内にある昭和五十九年に同会と契約した分収造林地において、会の発足二十五周年を記念した標柱の設置、枝打ち作業や除伐作業、森林学習会を実施しました。

森林学習会は「森の役割が学べる散策路」として同国有林内のそま径を森林事務所で整備した散策路で行われ、親子で自然を体感しながら森林の役割を学習しました。

参加した三歳の幼児は、ドングリや松ぼっくりを手のひらいっぱい集めながら両親と散策するなど、参加者全員が自然を満喫していました。会員からは「行事を通じて山に親しみ、森林の大切さを体感し、豊かな自然を子供へそして孫へと引き継いでいきたい」といった感想が聞かれました。

また、五月二十八日には、高山市上宝町の社会教育運営委員会による「親子森林教室」が同国有林で開催され、各森林



3歳の子供も参加して

官が参加しました。学習会は「源流をたずねて」と題し、上宝町子供会の本郷小学校四年生から六年生とその家族五十五名が参加。森林官が散策路のポイント説明として作成したマニュアルを使いながら上宝林業クラブの会員も一緒になって取り組みました。

子供たちは自分たちの身近な場所に大木や源流があることに驚きながら、五感を使って自然を感じ「今度は秋に来たい」など感想を語ってくれました。

一方、高山市朝日町にある市立朝日小学校では、毎年「なかよし全校遠足」に取り組んでおり、今年は五月三十日に「朝日町の自然のすばらしさを体感しよう」といったねらいで同町の「美女高原」で児童約百名が参加してネイチャーゲームなどを実施。当署からはふれあい担当やベテラン森林官のほか、職員の育成を目的に若手森林官や新規採用者も参加しました。

子供たちは森の中にある落ち葉や木の実を「大切な森の宝物」として子供たちの目線、感性で集め、匂いや手触りを感じながら日常では気にとめることのないもののなかから新しい発見を楽しんでいました。

## 豊橋国有林で

### ボランティアが勉強会

〔愛知所〕六月十一日豊橋市石巻の豊橋国有林において、東三河流域森林・林業活性化センターの主催による勉強会が開かれました。

この勉強会は、昨年同センターが開催した森林整備ボランティア養成講座の座学を受講した「とよはしきこり隊」のメンバー他関係者十名が参加し、現地実習として行ったもので、愛知所ではセンター事務局からの要請に応え国有林をフィールドとして提供したものです。

この実習は、豊川水源基金の森づくり事業「豊川流域住民への森林情報の共有・啓発活動」の一環として、今年度から予定している流域森林の現状把握、豊川・森の健康診断を行うにあたってのリーダー養成を目的として行われたもので、人工林内の下層植生や土壌の形成、植栽木の状況等を調査して、林分の生育状況の判定が行われました。

参加された方は、「人工林の整備は地主さんの方針で様々。豊川流域の今後の森づくりのために都市住民が関心を持つていきたい。」と話されました。

民有林行政と連携

流域管理システム

…国有林間伐箇所での検討会…

〔飛騨署〕 当署では宮・庄川流域森林・林業活性化センターの取り組みの環境として、岐阜県と連携した現地検討会を、夏既森林事務所管内にある彦谷国有林の森林環境整備事業（保育間伐活用型）実行箇所六月十四日に実施しました。

当日は、岐阜県飛騨農林事務所、高山市のほか、流通、加工部門を担う岐阜県森林組合連合会、飛騨高山森林組合、また、森林の整備とともに間伐材の積極的な利用といった事業の目的を具体的に実行する立場として請負事業体も参加し、総勢二十五名による検討会となりました。

現地では国有林の取り組みを説明するなか、県からは、「従来ハード面とソフト面の部署が分かれていましたが、四月の組織の改正で新たに飛騨農林事務所として両方を担うことになりました。地域林業として民有林と国有林との連携が重要となっており、さらに『岐阜県森林づ



熱心に説明を聞く参加者

くり基本条例』が施行されたほか、『新生産システム』のモデル地域となったことから、こういった取り組みはさらに重要」と挨拶がありました。

午後は、飛騨高山森林組合が建設を進めている「木材製品流通センター」を見学するとともに、現在、取り組まれている「新生産システム」について勉強会を持ち、原木の供給側としての国有林の役割にも大きな期待が寄せられていました。

検討会の中で県から不法投棄防止の連絡協議会設置について協力要請があるなど、幅広く情報交換ができ、今後ともこういった催しを開催し情報の共有化を図るなか、地域の森林・林業の振興、元気な林業に向け取り組みを確認し検討会を終了しました。

新シリーズ

実験林・試験地等紹介

今月号から新たなシリーズとして中部局管内の実験林・試験地等を紹介するコーナーをスタートさせました。

試験地等を所管している森林技術センターから投稿をいただき、今回、第二回として掲載します。

第一回

「御岳トウヒ・シラベ林分 成長固定試験地」

「森林技術センター」岐阜県御岳山麓の標高千六百メートルの亜高山帯にあるこの試



試験地の林分

験地は、昭和三十年（一九五五年）に森林資源調査を目的として、天然生針葉樹林の林分構造や生長量の推移を明らかにするため設定し、伐採や被害の処理などを行わず自然に推移させ、十年毎に調査を行っています。

今回、試験地設定後、半世紀を経過したので五十年目（二〇〇五年）の調査を行い、これまでの調査資料を含め分析してみました。

分析した主な概要は、設定当初からの総材積の変化は少ないが総本数が二倍近くとなり、樹種構成など林分内容が大きく変化しています。

トウヒ・コメツガ・サワラ・シラベ等針葉樹の材積占有率は変わらないものの、コメツガの材積が半減し、シラベの本数が三倍に、広葉樹も四倍になってお

り、設定当時の老齢過熟林分であった大径木が衰退し、天然更新により後継樹である小径木が増加しているなど、生長・枯損の様子が明らかになっています。当局の管内には、他にも「ブナ天然生林」、「木曾ヒノキ天然生林」、「ヒノキサワラ天然生林」と同様の目的で試験地が設定されており貴重な存在となっています。今後も森林施業等適切な管理経営に資するため、継続して調査を続けることとしています。

◇所在地：岐阜県下呂市小坂町

落合国有林六十五ほ林小班

試験地の調査データなどは、「森林技術センターのホームページ」に掲載。



試験地のある御岳山麓





南側から見る可愛い山 雨飾山



◇「可愛い山 雨飾山」

「中信署」雨飾山を「可愛い山」と表現したのは深田久弥（日本百名山著者の登山仲間。頸城山塊の西端に少し離れて、長野・新潟の県界に独立峰のように位置します。「可愛い」と評されたのは、間近に連なる北アルプスに比べて小ぶりなの

に、表情が豊かな山だからでしょうか。雨飾山は季節ごとに様々な顔を見せてくれます。標高（一九六三メートル）の割に高山植物が豊かな事で知られ、春先のミズバショウや初夏のシラネアオイも目を引きます。登山口から続くブナ林の新緑や紅葉は、残雪や初雪とのコントラストをいっそう引き立てます。また、山の姿自体も、見る場所によって様々に変わります。大町市側（南側）から見るとどっしりとした「ピラミッド型」だと深田氏は形容しています。しかし、新潟県側（北側）から見ると南峰と北峰が競い合うようにたつ双耳峰であり、「ネコの耳」と呼ばれて親しまれているそうです。さらに小谷村大綱（西側）からは、剣のように鋭く鋭くとがる姿を見ることが出来ます。標高こそ二千メートルに及ばない山ですが、眺望もすばらしく天気の良い日には間真近に白馬岳から槍ヶ岳等の北アルプスや日本海を望むことも出来ます。山の懐には温泉を隠し持ち、冬は山岳スキーを楽しむ人々を迎えます。昔、糸魚川の漁師はこの峰にかかる雲の形で天気を予測したり、海に出たときの目標としたと云われています。山の名前の由来はその昔、南峰には「雨飾山大神」、北峰に「雨飾山姫神」を祀って雨乞い祈願をしたことから、「雨」という、登山者にとってあまりありがたくない名がついたと云われています。

雨飾山は、気になるカワイイあの子みたいに表情をくるくると変える「可愛い山」なのです。

◇アクセス

小谷温泉側からのコース（JR大糸線南小谷駅から小谷温泉までバス四十分）・糸魚川市梶山温泉からのコース（JR北陸本線糸魚川駅～山口バス停三分）その他二コース

行事・会議等の予定

◎治山課長会議

7月4日 林野庁

◎国家安全週間

7月1～7日

◎国有林・民有林治山ヒアリング

7月6・7日 林野庁

◎名古屋シティ・フォレスト事業

7月14・20・25・28日

富山署、愛知所、飛騨署、南木曾支署管内

◎祖父谷検討委員会

7月21日 富山署管内

◎森林ふれあい講座

7月23日 愛知所管内

◎森林施業現地検討会

7月25・26日 木曾署管内

OBからの投稿

管内囲碁大会を開催

第三十八回管内囲碁大会が五月二十日中部森林管理局別館で開催されました。OBが二十六名、林業関係新聞社から二名、あわせて二十八名が参加し、盤上に熱戦を繰り広げました。成績は次のとおりです。

Aブロック

- 優勝 小島忠徳 五段 (OB)
- 準優勝 鈴岡利男 四段 (〃)
- 三位 荒井 忠 六段 (〃)

Bブロック

- 優勝 清水長久 三段 (OB)
- 準優勝 山本住夫 三段 (〃)
- 三位 伊東靖喜 三段 (〃)

Cブロック

- 優勝 内藤六雄 一級 (OB)
- 準優勝 金沢千弘 初段 (〃)
- 三位 小林保夫 三級 (〃)



熱戦を繰り広げる参加者